

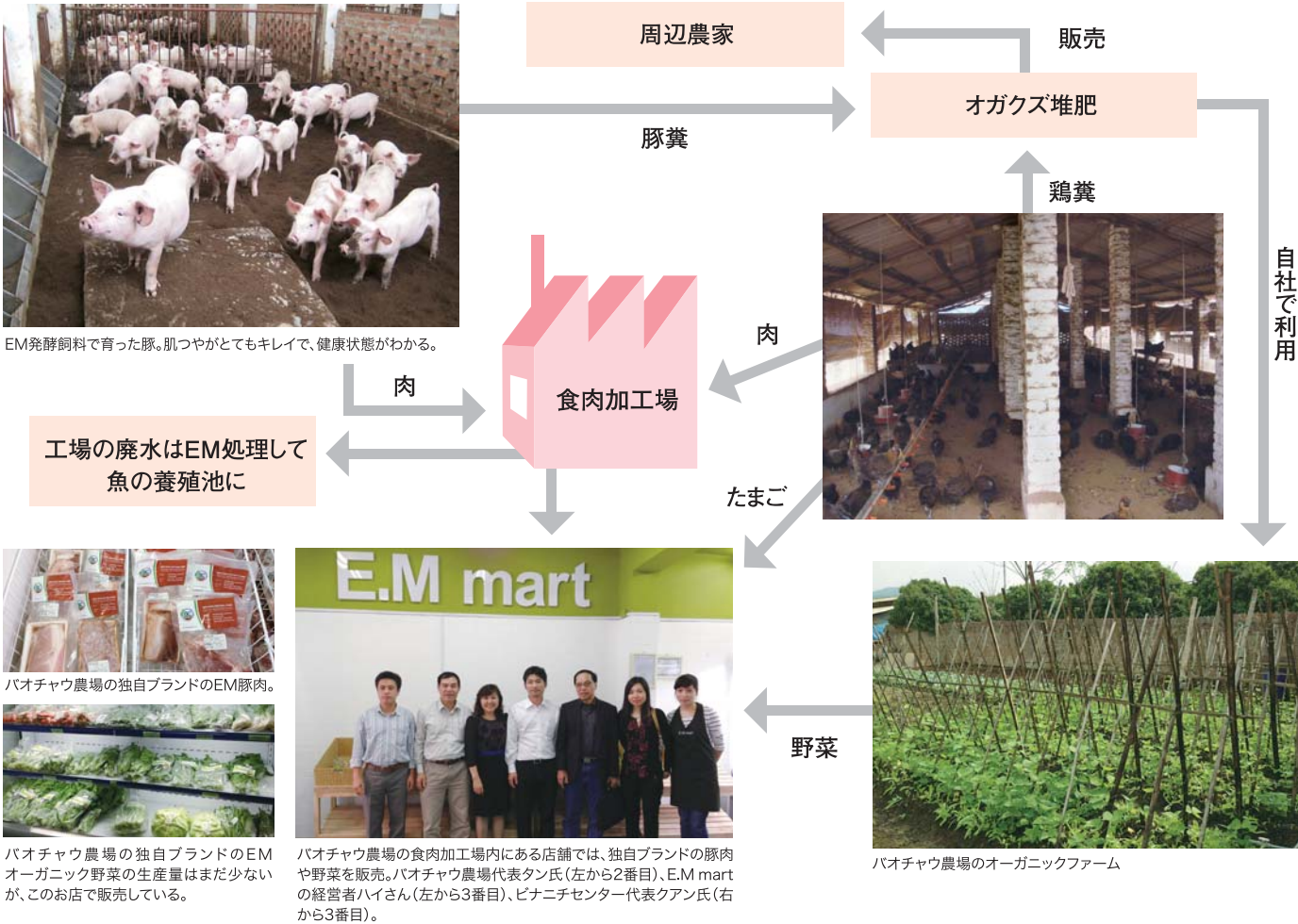
現在では、養豚や養鶏の他にEMを活用したオーガニック栽培や魚の養殖も始めました。昨年10月には、農

養豚と同じ方法を用いて養鶏も
行っており、なかでも、薬用鶏として
地元の方に好まれる鶏肉も販売され
ています。無農薬で健康に良い食品
としてテレビにも取り上げられる
等、バオチャウ農場は有名になってい
ます。

現在では、養豚や養鶏の他にEM
を活用したオーガニック栽培や魚の
養殖も始めました。昨年10月には、農



農業省およびハノイ新聞社から表彰を受けたバオチャウ農場代表のタン氏



From The Vietnam (ベトナム)

ベトナム政府と協働で 進む資源循環モデル

1997年にEM技術に関する政府プロジェクトがベトナム科学技術環境省で発足。このプロジェクトでは、ベトナム政府および日本のEMグループ^{※1}の間で、EM技術普及に関する協力が合意され、EM1の現地製造や技術者派遣がスタートしました。現在では、農業・畜産・養殖など、様々な分野でEMが活躍しています。

※1 (株) EM研究機構、(財)自然農法国際研究開発センター、APNAN



ビナニチセンターの代表クアン氏(前列左から2番目)とスタッフの皆さん

※2 MOSTE : Ministry of Science, Technology and Environment

ハノイ市では数ヶ所のゴミ処理場でEM技術が利用され、処理場の悪臭軽減に効果が認められています。ハノイ市郊外のキウウキ地区にあるゴミ処理場では、ビナニチセンターの協力もあり、1999年の運営当初からEMが活用されています。トラックで搬入されてくるゴミに対し、EM活性液の500倍希釈液(雨期は100倍希釈)を散布し、同時に埋設場所へも500倍希釈液(雨期は100倍希釈)の散布を行っています。EM処理によって、ゴミ処理場からの悪臭の発生はなく、また、埋設場所から浸出する廃液の臭いもありません。2009年には敷地内にコンポスト工場



ビナニチセンターの代表クアン氏(右)、ハノイ科学技術協会会長ホアン氏(中央)、株式会社EM研究機構の安里社長(左)。ホアン氏は初期からEM普及に携わっています。



ゴミ処理場の悪臭対策にEMが活躍

ゴミ処理場の敷地内にあるコンポスト工場。EM活用によって短期間で良質の肥料がつくられています。

が新設され、主に家庭からの生ごみや道路・公園の剪定クズが堆肥化されています。この堆肥の発酵過程でもEMが活用され、短期間で良質のコンポストが製造されています。

ゴミ処理場からの臭いがなかったため、周辺住民からの苦情は一切なく、現在では周辺住民にEM活性液を配布し、地域一帯でEMの活用が広がっています。